

突然ですが、「フロントライン」という映画をご存知ですか？

2020年2月に日本に入港したクルーズ船内で発生した、新型コロナウイルスの集団感染に、日本で初めて向き合い、最前線に対応にあたったDMATの活動を描いた映画です。豪華な俳優陣による熱演に、当時の記憶が蘇ったと同時に、報道でしか知ることができなかった、現場で起こっていた「事実」を知ることができました。当時、当院からも3名のDMAT隊員が派遣されていました。改めて、DMAT隊員としての勇気や責任感を感じられる映画でした。今回は、その映画の感動を胸に、当院のDMAT隊員の皆さんに、災害医療に関する熱い思いを語っていただきました。



DMATって何者？

DMAT (Disaster Medical Assistance Team) は、災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チームと定義されています。医師・看護師・業務調整員で構成される災害医療のプロフェッショナル集団です。現場医療だけでなく、被災地病院の機能維持・拡充、被災地外に患者を搬送する広域医療搬送など機動性、専門性を活かした多岐にわたる医療支援を行います。

DMAT医師 田中航

現場では、統括DMATとして主に本部活動を行っています。能登半島地震派遣では本部活動と並行して自衛隊機による患者搬送を行いました。私は小学6年生の時に阪神・淡路大震災で被災し、多くの友人を失い、その経験から医師を志し救急医療・災害医療を志望しました。災害は常に我々の想定を超えてきます。災害を経験するたび、やはり日頃からの備えが何より重要であると実感します。みなさんもお家族と避難場所や備蓄品の確認などをぜひ行ってみてください。



災害医療・危機管理センター (DiMCOC) 内線：3040

DiMCOCサイト

災害情報載せています。

スマホからはこちら→



DMAT看護師 矢野博己

ダイヤモンドプリンセス号対応のため
2020年2月、当院からDMATチーム員の
一人として派遣されました。

元々、先輩男性看護師がDMAT隊員であり、災害医療に取り組んでいる姿に感銘を受けDMATを目指しました。出動要請の場面は突発的ですし、過酷なこともありますが**災害現場において欠かせない存在**です。皆さんもぜひDMAT看護師を目指してみたいはいかがでしょうか？



DMAT業務調整員 中島瑠南



業務調整員は医師・看護師以外の医療職及び事務職員等が担当します。

縁の下の力持ちとして関係各所からの情報収集や連絡調整、隊員の健康管理に関することまで幅広く業務を行い、活動が円滑に進むよう支援します。大学時代から救急・災害医療に興味があり薬剤師としての知識を活かしながら現場で被災者の命を守る医療活動に貢献したいと思い志望しました。

“もしも”に備え、日頃からの準備を！

DMATを目指してみませんか？

大変ですがやりがいのあるDMAT活動・・・ぜひ一緒に災害医療・災害看護を目指してみませんか？興味のある方はお近くのDMAT隊員やDIMCOCまで声をかけてください！お待ちしております。

編集後記：数十年ぶりに水郷祭に行きました。

久々の花火の豪華さにびっくりしながら「The夏祭り」メニューを沢山楽しんできました！

もちろんかき氷はいちご味です。

